

シンポジウム

令和4年11月13日(日) 14:30 ~ 16:30

日本体育大学世田谷キャンパス スポーツ棟 体操場

司会進行:小柳 将吾

## 【各大学授業の現状と今後の課題】

さまざまな大学がある中で、「体操」や「体づくり運動」を1つの授業単元として実施している大学は少ないと思われます。「一般体育」として授業が展開され、その中の1単元として実施されています。

体操学会として、学校体育や運動指導の現場で実施できる体操をより多くの方々に学んでいただき、更にその学びを広げられていくことが大切になっていきます。体操を教材とした実技(学問)をどのようにして確立していくか。これに焦点を当て、今回のシンポジウムでは大学でご指導されている4名の先生方に実技を紹介していただき、大学授業の現状を体験し今後に生かしていただける内容を企画しました。

### 【シンポジスト紹介】

#### (1)「保育者養成の現場から考える一般体操」

##### ー 遊びづくり→動きづくり→体づくりの授業実践 ー

短期大学での保育者養成に携わり約10年が経ちます。これまで私自身、「遊び」を中心に活動を展開する保育に対し、「動きづくりと体づくり」を重点課題とする一般体操の専門性を活かし、「保育現場にどう貢献できるのか」「どう保育者を養成していくのか」について、実践的に模索してきました。

今回は、保育と体操の実践的な視点を関連させ、遊びの環境を構成しながら(遊びづくり)、子どもの“からだ(心と体)の動き”を引き出し(動きづくり)、結果的に体力や体の動きが高まること(体づくり)をねらいとする授業実践の一部を、身近なものである「新聞紙」を用いて紹介します。その上で、保育者養成の現場における現状と課題について言及します。



田村 元延 氏  
常葉大学

#### 田村 元延(たむら もとのぶ)

静岡県の常葉大学短期大学部保育科に2014年から専任教員として所属し、主に「子どもの運動あそび」「表現領域」「幼児体育」に関する授業を担当している。その他、保育現場での研究保育、有資格者研修などの講師も務めている。子どもの“からだ(心と体)の動き”を引き出す遊びの素材や環境づくりをテーマに研究や実践を行っている。

## (2) 「小学校体育」の授業で実践している体づくり運動の内容

小学校体育では運動6領域が設けられ、その中の1つに「体づくり運動」が位置付けられています。しかしながら単元として体づくり運動が実施されていなかったり、その内容が体力測定や集団行動等に置き換えられたりしている現状も報告されており、学校現場における体づくり運動領域の指導には課題があると認識しています。そのため、受講生が教員として現場に立った時に、大学で学んだことをベースに体づくり運動の授業を展開できる力を身につけて欲しいと願いながら授業を進めています。当日は、短なわを用いて「体ほぐしの運動」から「多様な動きをつくる運動」への展開例をご紹介します。易しいなわの運動を通して仲間と関わり合うことで皆さんと運動の楽しさを共有し、「私にもこの授業ならできそう!」と思ってもらえれば幸いです。



檜皮 貴子 氏  
新潟大学

### 檜皮 貴子(ひわ たかこ)

2014年より新潟大学人文社会科学系に所属し、教育学部において教員養成に携わっている。小学校及び中学・高等学校(保健体育)の教育職員免許状取得を目指す学生を対象に、「体づくり運動」、「ダンス」、「体育科教育法」などの授業を行なっている。研究においては、児童を対象とした転倒予防に関して体づくり運動領域の側面からアプローチした実践研究を行なっている。

## (3) 「身体に纏わる文化と科学の総合大学」が目指す授業について

本大学は5つの学部がありますが、どの学部においても「活力ある身体の心理探究」、「国内外におけるあらゆる現場での先導的役割」、「スポーツ文化の理解・発展」、「国際的な競技力発展」を念頭に掲げて授業が展開されています。大学がトップアスリートを輩出する中、学生らは教員(幼・小・中・高)や公務員、スポーツビジネスや地域社会への参入、救急救命や国際的な現場での活躍など、多岐に渡った目標を目指しています。しかし、どんな現場に行ったとしても、常にリーダーシップを発揮し体育人としての見本となる人材になるよう指導しています。この指導に際し、「体づくり運動(体操)」を通していかにして学生をその気にさせていくのか。まずは自分から動く!!!

本日は日体大ならではの授業をご体験ください。



小柳 将吾 氏  
日本体育大学

### 小柳 将吾(こやなぎ しょうご)

2017年より日本体育大学スポーツ文化学部(学)に所属し、大学必修科目である「体づくり運動(体操)」を中心に、「体操の指導法」、「スポーツ指導現場での組織づくり」、「海外でのスポーツ指導法」など、国内外問わず指導できる指導者育成の授業に携わっている。また、日体大体操部監督、一般体操委員、体操指導員として老若男女を問わず体操の普及発展に尽力している。

#### (4) 教養教育としての大学体育授業における体操

##### —スマホの日常性と多機能性を活用して—

私が初めて大学で教養体育を担当した際、運動を苦手とする受講生の多くが運動に対して非常に消極的な姿勢でいる姿を目の当たりにしました。「彼らは、体育の授業がなくなってしまうたら全く運動をしなくなるかもしれない」という危機感から、運動が苦手でも楽しく取り組めるような大学体育を目指して授業を進めてきました。

今回は、このような背景から考案したスマートフォン(以下、スマホ)を使った授業実践の一部を紹介します。スマホは、長時間の固定姿勢を誘発する「非身体的」な象徴とも言えますが、その一方で大学生の保有率は、ほぼ 100%であり、日常生活では欠くことのできないアイテムになっています。スマホの持つ日常性と多機能性を活用して、スマホ(非身体性)とトレーニング(身体性)を融合した「スマトレ」という、新たな体操のあり方を提案します。



堀口 文 氏

筑波大学

##### 堀口 文(ほりぐち あや)

大学生時代より、幼児から高齢者まで幅広い年代を対象に一般体操の指導を経験。2018年より筑波大学体育系体育センターに特任助教として勤務し、体育を専門としない一般大学生を対象に「リフレッシュ体操」の授業を担当している。また、筑波大学大学院の博士後期課程に在籍し、大学生の身体活動における自己管理能力の向上をテーマに研究を行っている。